

映画用デジタルセパレーション用黑白レコーディングフィルム「ETERNA-RDS」の開発により

富士フィルムがアカデミー科学技術賞の “Scientific and Engineering Award”を受賞

平成 24 年 1 月 6 日

富士フィルム株式会社(社長:古森重隆)は、映画用デジタルセパレーション用黑白レコーディングフィルム「ETERNA-RDS」の開発により、米国の映画芸術科学アカデミーが選定する平成 23 年度科学技術賞の“Scientific and Engineering Award”を受賞することが決定いたしました。授賞式は、米国ロスアンゼルスにて、現地時間 2 月 11 日に行われる予定です。

「ETERNA-RDS」は、映像情報を長期にわたって保存し、映画コンテンツを「文化遺産」として後世に残していく事を目的に、カラー画像の3色分解(セパレーション)を行い、安定した黑白画像(銀像)として記録するためのアーカイブ専用フィルムで、平成 22 年 4 月より当社ラインアップに加えたものです。

「ETERNA-RDS」は、レーザー露光によるデジタルレコーディングに特性を最適化し、優れた写真性能(シャープネス・粒状性等)を実現するとともに、黑白ネガ現像・ポジ現像のどちらでも優れた処理安定性を有しています。

近年、映画製作においてデジタル撮影が普及し、映像情報がデジタル保存されるケースが急速に増えてきていますが、データを保存したメディアの劣化や再生するハードディスクの急速なモデルチェンジにより、保存された映像情報を再生できなくなるリスクが伴い、万能ではありません。

今回の受賞は、「ETERNA-RDS」の開発が、これまでの映画事業の財産を後世に残すための重要な一歩になったと高く評価されたものです。既に、多くの米ハリウッド作品のアーカイブ保存用として使用されています。

本賞は、富士フィルム株式会社、及び「ETERNA-RDS」の設計・開発を担当した 3 名の技術者(大関 勝久、平野 浩司、白井 英行)に対して与えられます。

この受賞を励みに、今後も映画フィルムアーカイブの分野で貢献していきます。

本件に関するお問合せは、下記にお願いいたします。

報道関係	広報部	TEL 03-6271-2000
お客様	イメージング事業部 営業部 映画グループ	TEL 03-6271-2124